



考え方や製品・サービスの比較検討、最新トレンドの情報収集ができる企画だと感じました。

興味を持つ各分野のブースで100個程度の資料を受け取り、特に興味のある内容では追加の説明を受け、連絡先も確認し、現在も連絡を取り合っています。7月9日には総合窓口につながる技術と考えられる提案がなされた会社の担当者と打ち合わせをすることが出来ました。

コミュニティバスでのMaaSプラットフォームと地域通貨の連携や、産科問題では、ネットワークによる相談事業を取り入れることでの対応策、病児保育での対応への提案などがあります。

それぞれの提案が多治見市でどのように役に立つのか、整理している段階ですが、既に担当課に資料を渡した分野もあります。このような企画は、ぜひ、多治見市役所として職員を派遣できるように、行政に働きかけていかなければと考えています。

**【議員氏名】 葉狩拓也**

自治体公共 Week2024 では、スマートシティ技術とデジタルガバメントに関する最新の情報が紹介されていました。

スマートシティ技術では、IoT センサーを使って都市の交通や環境データをリアルタイムで収集することで、都市の運営の効率化が進むことが期待できると感じました。

エネルギー管理システムでは、再生可能エネルギーを効率よく使う方法が示され、エネルギーコストの削減に役立つと感じました。

デジタルガバメントの分野では、住民がオンラインで簡単に申請できるシステムや、AI チャットボットが24時間市民の問い合わせに答える最新のサービスが紹介され、今後活用を始める当市においても、最先端の情報を更新していく必要性を感じました。これらの技術が当市のデジタル化を進める上で重要であることを再認識しました。

**【議員氏名】 亀井芳樹**

東京ビッグサイトの南1-4の広大な場所を使った「自治体公共 Week2024」に参加しました。

「自治体DX展」では、DX・デジタル化、業務効率化、セキュリティ、人材育成などを、

「地方創生 EXPO」では、地域PR、観光・インバウンド支援、産業支援などを、

「地域防災 EXPO」では、自治体向けの【地震・風水害・火山】対策を、「スマートシティ推進 EXPO」では、MaaS、通信ネットワーク、ゼロカーボン化などを、

「自治体向けサービス EXPO」では、健康福祉、施設管理、子育て支援などを、  
「インフラメンテナンス展」では、社会インフラの予防保全、長寿命化、老朽化対策を視察してまいりました。  
全て自治体向けであったため、運用に関しては現実的に可能なものばかりでしたが、課題は予算とのバランスであると感じました。ただ、内容によっては費用対効果が高いものも多々ありました。また、全国の自治体では、かなり早い速度でデジタル化が進んでいることが確認できました。

**【議員氏名】獅子野 真人**  
自治体・公共 Week 2024 は、自治体や公共団体向けの総合イベントで、2024年6月26日から28日まで東京ビッグサイトで開催されました。  
このイベントは、自治体 DX や地方創生など6つの展示会で構成されており、参加した350社以上の企業における最新の技術やソリューションが紹介され、自治体や公共機関が抱える課題解決に向けた具体的な提案が行われていました。地域コインや市専用 RPG の作成、地域内交通、獣害対策など様々なことを学んでまいりました。  
基調講演で河野太郎デジタル大臣の「デジタル改革の現状と今後の方向性」について拝聴しました。中東の砂漠の真ん中にある避難キャンプでは、避難民全員が虹彩登録をし、カルテの管理や買い物の支払いなどをクラウド上で行っているという話から始まり、地域における交通(ライドシェア)の話まで幅広くお話いただきました。その中で印象に残っているのが、「自治体は失敗してはいけないという風潮があるのを変えなければいけない。デジタル改革が進む際に起きる問題(例：マイナンバーの紐づけ間違い)を怖がっているのは、世界に取り残されてしまう。」というお話でした。デジタル改革を機に変わっていかねばならないと感じました。

7 写 真 等  
※視察の場合は必須、研修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。  
※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。